

おっぱい都市基本構想(案)に対する

パブリックコメント実施結果

おっぱい都市基本構想(案)に対し、「ご意見をお寄せいただきありがとうございます」とうございまして、「ご意見等とそれに対する市の考え方の概要は次のとおりです。」

案件名	おっぱい都市基本構想(案)について
募集期間	平成20年1月11日～2月12日
担当課	福祉保健部子ども家庭課
問合せ	☎0833(74)3092

提出者数 3人
 提出方法 窓口持参 1人 Eメール 2人
 提出者区分 光市に住所がある個人 3人

意見等概要

「施策の推進にあたって」では、行政の役割が一番目に示されているが、家庭・学校・地域が大事だと思う。行政は、最後に位置するのではないのか。

なぜ「おっぱい」にこだわるのか。「おっぱい」＝「胸」にしか思えない。

「母乳育児の推進」を構想の理念に組み込むとともに、大きな柱の一つとして位置付けることを提案する。母乳が出ない母親への配慮などは必要だが、この原点をしっかりと踏まえ、新たな命の誕生に対するかわり方を持つことが、その後の子育ての在り方に引き継がれ、まちづくりに影響を与えると考える。

教育格差が問題になっているが、光市は「一学期制」という思い切ったスタイルを選択した以上、国の教育政策に振り回されず、塾に頼らなくても通用する学力を身に付けられる学校教育を考えてほしい。

本構想の具体的な施策の展開例として、「若者の出会い支援」が挙げられているが、市主催の集団お見合いなどを考えているのか。プライベートなことに行政が立ち入るべきではない。

光市の乳幼児医療は、ある一定の所得世帯について医療費を無料にしているが、所得制限なしに就学前まで一定の負担で受診できるようにしたら無駄な受診も減ると思う。

また、夜間休日の小児科診療を周南市の医師会病院に頼っているが、「子育てにやさしいまち」とうたうのなら、休日診療所などに小児科医を常駐させるくらいの取り組みをしてほしい。

考え方(概要)

ご指摘のとおり、「子育ての中心は家庭」という位置付けのもと、行政は、家庭・学校・地域等とこれまでに連携・協力した取り組みを行いたいと考えており、本案を修正します。

「おっぱい」は、ふれあいの子育てを進める上で最も基本的な「抱く」という行為を示します。「おっぱい」から連想される「温かさ」を大切にしたいとの考えから「おっぱい」という優しい表現を使用しています。

母乳育児の推進は、栄養面などからも重要なことと考えます。これを踏まえ、本構想では、「母乳が出る出ないにかかわらず、子どもをしっかりと抱いて授乳する行為」の大切さに着眼しています。

親子の愛着関係を形成する上で最も基本的なこの行為は、母のみならず誰もがができる行為であり、まさしく光市の進めるふれあいの子育て、「おっぱい育児」に当たります。本構想は、この「おっぱい育児」を広め、「温かい人があふれる」ことをまちづくりの目標としています。

子どもが育つ過程で、学校は重要な役割を担っています。このため、本構想を通じて、子どもたちの確かな学力を養うとともに、異世代間の交流活動や地域活動の推進などにより、豊かな心をはぐくんでいきたいと考えています。

「若者の出会い支援」については、現在、県内企業等による「やまぐち結婚応援団」が取り組んでおり、多くの若者が参加（H18実績934人参加・72組カップル成立）しています。このように、本構想に掲げるさまざまな施策は、行政主導ではなく、家庭や地域、学校、企業と連携して進めます。

乳幼児医療費助成制度に伴う医療費の無料化が小児医療費の増加を促していることは事実であり、適正な助成制度の在り方が今後の課題となっています。

夜間休日の医療に関しては、現在、市の休日診療所に対応しています。また、周南市休日診療所で行う小児科医による休日夜間診療には、光市の小児科医も協力体制をとっています。さらに、小児救急電話相談(県事業)として夜間の対応も行っています。小児医療体制は、本構想でも主要な項目として捉えており、医療機関とのネットワークも含め、今後の課題と考えています。